

Paddy Volleyball BIWAKO CUP 2008

公式ルール

はじめに

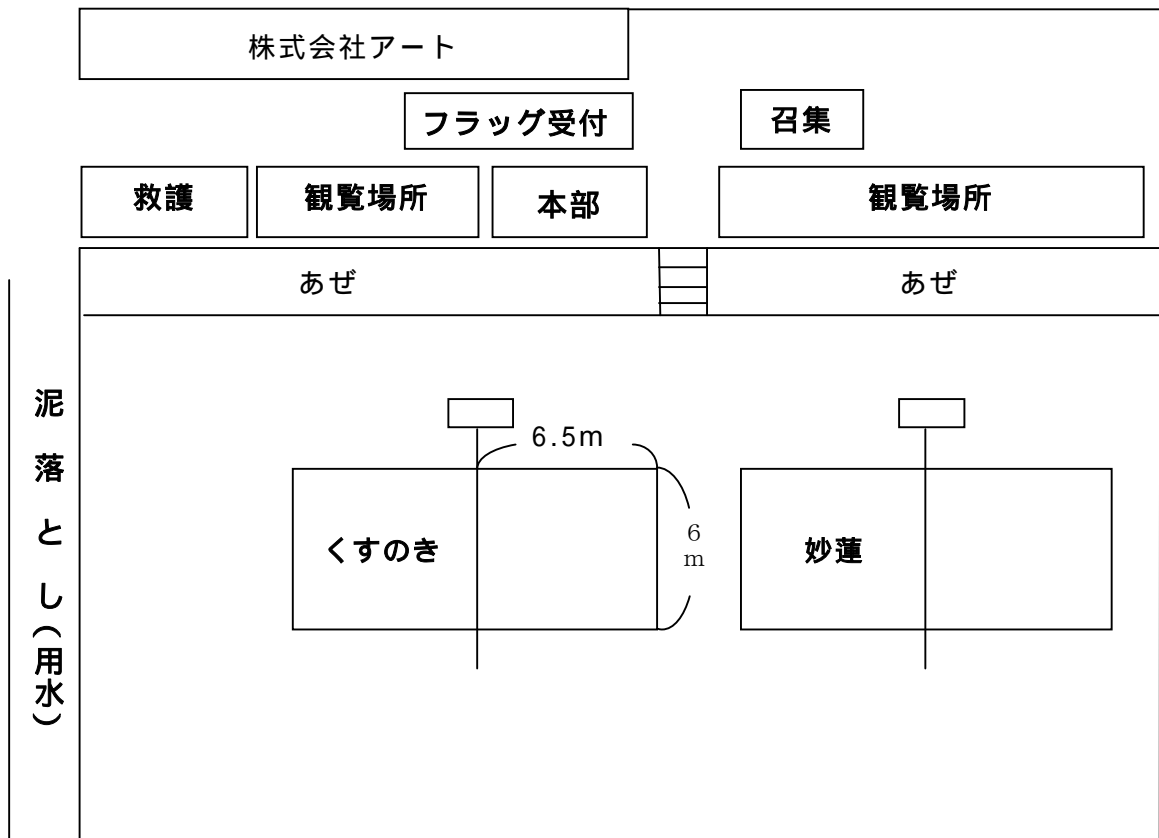
Paddy Volleyball は、年齢などに関係なく楽しめるスポーツ（競技）的要素をもったレクリエーションです。したがって、競い合う仲間やチームの仲間と、いかに楽しむのか、見ている人をいかに楽しませるのか、ということをお念頭に置き、ハッスルしていただきたいと思います。

参加資格

どろんこになる勇気があり、遊び心と人を楽しませることが大好きな健康に自信のある男女。

競技コート

- ・片面縦 6.5 m ・ 横 6 m のコートを、ネットを挟み設置します。
- ・ ネットの高さは水面より約 2 m とします。（アンテナは設置しませんが、著しくネットの端をボールが通ったときはアウトとします。）
- ・ ラインについては、泥面にライン引きが不可能なため、各ポイント（コートの 4 角）にカラーコーンを置きます。



召集は試合 15 分前に代表者のみ本部横の召集場所で行います。予定がずれ込む場合は、こちらで指示しますので、放送をよく聞いて行動して下さい。

チーム編成

- ・ チームは、登録している選手のみとし、コート上の選手は4人とします。
- ・ フリー交代制（目に泥が入った場合も、洗顔などのためにゲームを止めることはありません）
- ・ コート上の4人の年齢・性別などの組合せは自由です。

試合の構成について

- ・ 前・後半5分ずつ合計10分間のラリーポイント制で行います。
- ・ 前半終了の合図がありましたら、そのまま速やかにコートチェンジし、審判のサーブの合図で後半を始めてください。コートチェンジ中も時間のカウントは止まりません。
- ・ 前半終了・試合終了の合図がありますが、プレー中であれば当該ワンプレー（つまり、ボールが落ちるまで）は続けてください。
- ・ 終了時点で得点が多いチームを勝ちとします。ただし同点の場合は、続けて最後のプレーを行い、勝敗を決定します。（サドンデス方式）

試合時間に間に合わなかったチームは、1分間遅れるごとに5点相手チームに加算されます。また、5分以上の遅刻は失格になります。

予選は、3～4チームのリーグ戦で行い、それぞれのリーグでの勝ち数の多い1チームが決勝トーナメントに進むことができます。

リーグ戦で勝ち数が同じ場合、得失点差で決勝トーナメント進出チームを決定します。

決勝リーグは、8チームのトーナメント戦で行います。

決勝トーナメント出場チームについては、13時15分ごろにアナウンス、および掲示にてお知らせします。

決勝トーナメント出場チーム発表後、トーナメントの抽選を行いますので、代表者の方は本部前までお越し下さい。

服装等について

必ず上下衣類を着用すること。水着なども可能。

（田植え足袋、地下足袋、ゴーグル等の使用、着用をお奨めします。また、自然相手ゆえに、虫刺されもありえます。虫除けスプレーの使用もお奨めします）

防寒対策として、各自バスタオルなどの用意をお願いします。

競技ルール

下記ルールを遵守し試合運営を行います。最終判断については審判員が判断します。

基本ルール

サーブは、一回とします。ラリーに勝ったチームがサービスチームとなり、コート中央付近からアンダーハンドサーブを行います。

試合開始時のサーブ権やコートの選択は、試合前に召集場所にてじゃんけんで決めます。相手方のサーブしたボールを、ブロックしてはいけません。

ローテーションは行わなくてもよいですが、サーブについてはチーム内で順番に行います。

【ネットイン】

打球がネットに触れて、相手側コートに入ったときもプレーを続行します。(サーブボールも同様とします。)

【ネットタッチ】

プレー中、ネットに触れる行為は反則とします。

【ドリブル】

一人が連続して、複数回ボールに触れる行為は反則とします。ブロックのボールタッチはカウントに入れません。

【ホールディング】

プレー中にボールをつかんだりすることや持ったりすることなど、ボールの動きが止まるような行為は反則とします。

【オーバータイムス】

ネットを越えて相手コートへ打ち返すために、3回以上ボールを触ってはいけません。ブロックでのボールタッチはカウントに入れません。

【オーバーネット】

ネットの上から相手側に、手などの体の一部を出してはいけません。

【パッシング・ザ・センターライン】

ネットの下の両コートを隔てる線(ラインが引けないので、審判の判断に任せる)を越えて相手コートに入ってはいけません。

他のコートからボールが入った時は審判の指示によりプレーを止めることがあります。

ネットタッチ・ドリブル・ホールディングなどの反則については、コートの性質と試合の円滑な進行を考慮して、審判員の判断により緩和します。また、審判員は試合内のすべての判定権限を有し、判定に対する異議申立てを一切受け付けません。